

令和7年度(2025年度)

進路だより

未来を切り拓く たくましく 心やさしい 子どもたちへ

札幌市立真栄中学校

第33号

令和7年(2025年)7月4日

★期末懇談を前に…★

4月の学年PTA集会資料や、来週7日(月)開催の進路説明会資料をお読みいただいていると存じますが、期末懇談を間近に控え、以下再確認させていただきます。期末懇談前に、御家庭で今一度御確認していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

- ・私立高校のほとんどは、第1希望(公立高校不受検)だと1月受験、第2(3)希望(=公立高校が第1希望)だと2月受験。
第1希望が私立高校、第2希望が公立高校の場合は、私立高校を2月受験とすることもできる。
1月受験は、1月中に合格発表があり、2月受験の入試日以前の、2月初旬に入学手続を終えなくてはならない日程だからである。
- ・私立高校は、入試の点数とランクとの相関で合否を判定する公立高校とは異なり、学科・コースごとに、〇ランク以上で合格の可能性が高くなる、という目安がある。
- ・私立高校が第2(3)希望とは、第1希望の公立高校に御縁がなかった時のための受験であり、このランクの目安がおよそ事前にわかっていないと私たちは安心して受験できず、高校側にとっても安心して出願してもらえないから…、の目安である。また、第1希望としての私立高校受験の場合も、その1校のみの受験であるから、目安がわかっていないと安心して出願できないから…、の目安である。
- ・単願・専願・推薦(1月受験)は、この目安を募集要項に明記している私立高校が多い。一般(併願、2月受験)のみ、または単願・専願・推薦・併願のいくつかで、この目安を明記していない私立高校もあるが、中学校で収集している過去の入試結果に基づいて、期末懇談等でアドバイスをさせていただきます。

- ・募集要項の出願資格欄に、3年間での欠席日数の合計が〇〇日以内、と明記している私立高校が多い。ランクの目安同様、明記されていなくても、中学校側で蓄積しているデータに基づき、必要に応じて期末懇談等でアドバイスをさせていただきます。体調管理に留意して、残りの中学校生活を過ごしていただきたい。なお、公立高校の入試は、私立高校ほど、欠席日数を合格のための目安とはしない傾向にある。
- ・この目安に達していなくても当日の点数次第で合格、という私立高校(学科・コース)も一部あるが、合格の可能性が決して高くない私立高校への出願はお勧めできない、というアドバイスを期末懇談等でさせていただきます場合がある。当日の点数次第というチャレンジ的な私立高校受験をする場合は、A・B日程いずれかのもう一方で、目安を叶えている別の私立高校の受験をお勧めする場合がある。
- ・1月受験は10月に手にする前期評定(通知表)で出願をする。なぜならば、年内に出願手続をし、冬休み明けにすぐ受験という日程となるからである。私立高校1月受験=3年前期評定による出願となるので、目安をクリアするためにランクアップが必要な場合は、9月の前期期末テストが鍵。
- ・私立高校2月受験や公立高校(自己推薦・一般ともに)は、学年末評定によるランクでの受験となるが、御家庭でWeb出願手続→中学校へ願書提出→中学校が各高校へ願書や必要書類を提出、という時期はまだ学年末評定が確定していない。学年末評定は1月の後期期末テストの結果を受けて確定する。学年末評定=3月に通知表を配付、であるが、3年生だけは1月下旬に、10月の前期評定9教科合計と比べての、up or downを全員に連絡する。公立高校の出願状況(俗にいう「倍率」)も見て、「出願変更」の権利を行使するか否かを、御家庭で判断するために必要な情報だからである。
- ・学年末評定がまだ決まっていない12月の期末懇談を経て、出願をする高校をすべて決定していただく。そして、公立高校は自己推薦・一般を問わず、願書を年内に提出していただく。よって、前期評定から学年末評定がいくつupすると〇〇高校への出願ができるかもしれない…、ということにはならない。つまり、私立高校1月受験のみならず、すべての受験において、10月に手にする前期評定がとて重要である。